

1. 評価報告概要表

作成日 2009年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501240
法人名	社会福祉法人愛光会
事業所名	グループホーム愛の里にった
所在地	太田市新田田野井町145-1 (電 話) 0276-60-9661
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(平成21年8月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.25人

(2)建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費400円/日 預かり金管理料50円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円

(4)利用者の概要(8月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.4 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	荒木医院、山鹿歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は、田畑の中に保育園や小・中学校、神社などがあり、散歩コースに恵まれた環境に建てられている。敷地内には介護老人福祉施設とグループホームがあり、共に明るい色の外観とモダンで大きい建物である。各居室は7畳程であり、共用スペースも広く全体的にゆったりとしている。職員の利用者に対する話し方は優しく、親切である。また、家族への報告・伝言メモ・配布物等の漏れを防ぐため職員考案による、利用者一人ひとりの名前入りの状差しのようなものを手作り、利用している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の報告書は、掲示している。改善課題については、職員会議で協議検討し、改善計画シートを作成し、順次改善に向け努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回の職員会議で、管理者から全職員へ評価の目的や評価項目を説明し、項目に沿って実際の支援と比較しながら評価している。それを基に、リーダーと介護支援専門員がまとめ、最終確認を全職員で行い、支援の見直しに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、各メンバー(区長、民生委員、市担当者、家族の代表、管理者)の出席により開催されている。事業所から実地指導や外部評価の結果報告、意見交換が行われている。また、災害発生時の協力者として地域の人々と共に避難訓練や老人会主催の行事への参加などが実現に向け協議されている。運営推進会議の出席依頼は、協議事項や議題に関連した関係者の参加をメンバーに加えることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱を玄関に設置している。普段から「些細なことでも意見として伺いたい」旨を家族へ伝えている。家族からの意見は、利用者自身のことであり直接職員へ話している。事柄によって即刻話し合い、利用者本位に考え、解決している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館活動サークルの訪問や保育園の運動会へ招待されたり、菊花展を見に行く等の地域行事に参加している。また、今年から公園の清掃活動を行い、地域との連携を意識し努力されている。今後、自治会へ加入し、自治会活動へ参加・協力をすることで、今以上に地域の中の事業所として地域の人々と交流していくことを期待する。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを大切にしたい理念が、法人全体としてつづられている。	○	法人の理念を受けて、グループホーム独自の分かりやすい理念の構築を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、利用者等が何時でも見られるように、理念を掲示している。また、年1回理念の共通理解と理念に基づいた年度目標(安全で穏やかに、楽しく過ごす)を全職員で作成し、日々の支援に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	歌や演奏、読み聞かせ等のボランティアの人々の訪問や菊花展やJA祭り、保育園の運動会や納涼祭等の行事に参加している。老人会や自治会への加入はこれからであり、地域活動の参加にやや欠ける。	○	地域の一員として自治会に加入し、自治会活動への参加や協力を通じて地域に溶け込んだ事業所としての存在を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の職員会議で、管理者から全職員へ評価の目的や評価項目毎の振り返りが行われている。また、前回の外部評価を掲示するとともに改善計画シートを作成し、改善に向け努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(偶数月)、各メンバーの出席しやすい曜日と時間帯を選び開催している。会議では、実地指導や外部評価の結果報告がされ、意見交換が行われている。また、避難訓練の協力依頼や老人会行事(いきいきサロン)の参加などが提案されている。	○	運営推進会議の議題や協議事項に適したメンバーを流動的に依頼し、今以上に充実した会議になることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所近隣の公園を、市と連携しながら清掃している。また、包括支援センターへは機会あるごとに出向いている。	○	毎月の機関紙を持参しながら事業所の日頃の様子や取り組みを伝えたり、考え方を話し合うなど積極的な働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子や職員の異動などを載せた機関紙を毎月発行し、預かり金の出納報告(3ヶ月毎)とともに家族へ送付している。また、毎月の利用料金の支払いは家族等が来所し、面会や直接報告を受ける機会を兼ねている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している。また、外部の苦情申立て機関が重要事項説明書に明記され、家族へ説明をしている。家族からの意見(寝具の変更、デザートにヨーグルト)や苦情等は職員へ直接伝えられ、申し送りや月1回の会議で話し合い、早期解決を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚退職や法人内の異動により職員が代わる場合は、新旧職員の重複勤務を行い、利用者や新職員との関係が築けるように努めている。また、機関紙に異動等の職員の顔写真を掲載するなどして周知を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で人事考課制度を取り入れている。それを参考にした各職員の段階に応じた研修が行われている。事業所独自として、リーダーから職員へ1年間のテーマが提示され、各職員は達成目標を立て、協議を重ねながら学んでいる。また、外部主催の研修会の受講にも業務扱いで出席できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会主催のフォーラムに参加することや積極的に他のグループホームの見学、職員との交流を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合は、職員が事前に自宅訪問し、本人や家族に説明するとともに来所することを勧め、体験していただき納得の上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、数え歌や昔の流行歌、戦争の話等を教えて頂いている。利用者と職員が一緒におやつを作り、おしゃべりをしながら一緒に食べている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中から、一人ひとりの利用者の思いや考えを把握している。自室の掃除は自分でしたり、自室を施錠し鍵の管理をする等、本人の意向を尊重している。また、各利用者の生活カルテに生活歴を詳細に記録したものを、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来所時に、利用者の日頃の様子を伝えるとともに家族から意見や希望を伺い、会議(毎月)で検討し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員の計画の見直しは、原則3ヶ月毎に行っているが、利用者の状態(変化)に応じ、その都度職員間で話し合い、家族の了解を得て計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族訪問時に利用者と食事を一緒にする場合は、通所サービスのホールを利用している。また、家族の希望に応じ、宿泊できる和室が準備されている。利用者の「働きたい」という意欲をかなえるため、職場であると実感できる工夫を行い、1日1時間程度の公園の清掃を市の協力を得て支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医に関する要望を家族や本人から伺い、納得の上で受診先を選んでいる。現在、協力医療機関をかかりつけ医に全利用者が選び、診療を受けている。通院支援は職員が行い、受診結果を家族へ報告している。また、単科医療機関(歯科、精神科)への受診は、家族の付き添いを依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケア・看取りについて、本人や家族の意向を尊重し希望をかなえるよう努力している。看取りの実績があり、職員、医師全員で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には「さん」づけで声かけをしている。昼食時の会話や食事の手助け等言葉づかいやしぐさ(態度)が丁寧であり、相手を尊重している。また、個人情報の取り扱いについて、会議や研修会の機会を利用し定期的に確認・話し合いをしている。記録類は、職員室の棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおむね1週間の日課は定められているが、その日の利用者の状況に応じている。1日3食の食事時間は決めているが、利用者の希望時間や食べなくなる時間に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭く、器を選び料理を盛り付ける、配膳をする等職員と利用者が一緒に準備し、会話をしながら楽しく食事をしている。また、最後の人が食べ終わるを待ち、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回を目安に本人希望や体調の具合に応じて入浴を行い、入浴の準備は毎日(1日中)行っている。また、季節によって菖蒲湯やゆず湯を行い、入浴を楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者との会話や家族からの聞き取りを基に、個別の役割や楽しみごとを把握し支援している。野菜の栽培や収穫された野菜を調理し皆で頂いたり、神社へお参りしたり、米をとき炊飯の準備をする等一人ひとりに応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺を散歩コースに、車椅子の利用者も日常的に外出している。また、隣接の特別養護老人ホームへ遊びに行ったり、買物へ誘い出かける等、外出の機会をつくり戸外へ出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のチャイムによって出入りが確認でき、AM6:00～PM7:00の時間帯を開放している。外出傾向のある利用者を把握し、様子(行動)を見ながら一緒に外出している。また、隣接の特別養護老人ホーム職員の協力も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを作成し、掲示している。年2回の避難訓練は、隣接の特別養護老人ホームと合同で消防職員の協力を得て実施されている。近隣の人々への広報、協力を得られる働きかけにやや欠ける。備蓄品としてインスタント食品や水が、隣接の特別養護老人ホームに保管されている。	○	地域の避難場所の確認や地域の人々の協力が得られる体制の構築を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の特別養護老人ホームの栄養士が、献立表を作成している。本人の希望や家族からの意見で、栄養士や調理師と話し合い、代替食や粥食等その人に合った食事を提供している。また、食事摂取量や飲水量を記録し、体重測定(毎月)値と比較検討を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広々とした居間兼食堂である。壁には行事の写真を貼り、職員の活けた季節の花を飾り、家庭的な雰囲気づくりに心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳に、小タンスとエアコンが各居室に設置されている。私物の持込み自由であり、家族と撮った写真が飾られたり、使い慣れた家具を置いたりしている。寝具は布団かベッドのどちらを選ぶことができ、利用者が落ち着いて過ごせる工夫がされている。		